

『県農政部長と農業経営者との意見交換会』の開催結果概要

岐阜県農業経営者協会と岐阜県農業法人協会は1月18日(水)、岐阜市内において、横井篤農政部長、山内清久農政部次長をはじめ県農政部関係各課長の出席を求め、「**県農政部長と農業経営者との意見交換会**」を開催しました。

この会には、農業経営者協会の役員、農業法人協会の役員、農業会議から**坂英臣副会長・事務局長**が参加しました。

開催に当たり、**平野清通農業経営者協会会長**が「県内は海拔0メートル~3,000メートルにある立地条件を活用しながら農産物のブランド化に努めてきたが、いろいろな問題もある。本日は横井部長を囲んで、膝を交えて意見交換をしたい」と挨拶しました。

また、**横井篤農政部長**は「10月に就任し農政の推進に当たっているが、農業は奥の深い産業であり、重要性を改めて痛感している。皆様の意見を聞きながら新たなビジョンを策定し、農政の方向を示したい」と挨拶しました。

県農政の推進について

意見交換に入る前に、**山内清久農政部次長**が、当面の農政の推進について「**岐阜県の農業・農村の振興方向**」について、また、新たな農業・農村振興ビジョンの策定に向けての考え方等について説明をしました。

当面する農政の推進に当たっては、産業振興政策として 安全・安心な農産物づくり
岐阜ブランドの発掘と知名度向上 地域振興政策として 地産地消の推進 農村と都市の交流促進 魅力ある農村づくりを進め、「人と地球の健康」を守る農業の振興に努める。

また、新たな「農業・農村振興ビジョン」策定の趣旨、ビジョンの性格、策定方法等について説明し、「広く意見を求めていきたいので意見を聞かせて欲しい」と述べました。

農業経営者からみた意見・提案

主な意見・提案は、次のとおりでした。

稲作経営者・・・ 岐阜県の食料の確保を図るためには、担い手を如何に残すかが重要。担い手が儲かるシステムが必要。集落営農でなく、地域の農業を認定農業者に任せて欲しい。

現場主義に立った農政の推進。環境保全を重視した地域循環型の推進。

野菜経営者・・・ 担い手の確保・育成に当たり、後継者育成の就農に対する条件整備等の支援。技術開発と普及との連携、普及組織の維持。経営規模を拡大し、パートを雇用し地域の活性化に寄与。

花き経営者・・・ 若い後継者の意向を踏まえた農政の推進。経営は自己責任で行う意識が必要。環境にやさしいクリーン農業で差別化。市場検査結果の公表。技術力を付けて産地間競争、組織づくりで、グローバル化への対応。ぎふの花のPR。

肉用牛経営者・・・ 中山間地における専業農家、後継者育成。飛騨牛の改良に当たり、ポリュームのある資質の良い種牡牛を育成。

このほか、農業経営者組織が横断的で経営者が複数の組織に所属している現状の体制を見直し、作目別の簡素な組織に改革すべきとの意見も出されました。

この後、**小野木農産園芸課長**、**丹羽農業振興課長**、**茅野畜産課長**、**加藤農業技術課長**から農業経営者からの意見・提案に対する政策の推進状況、今後の取り組み等のコメントがあり、**坂農業会議副会長**からも、経営者としての農業経営に取り組む意識改革の重要性や県の農政推進に対するコメントがあり、さらに、農業経営者から県農政部関係課長との意見交換が続きました。